

会 議 記 録			
会議の名称	京都スタジアム検討特別委員会		会議場所 全員協議会室
			担当職員 加藤 太郎
日 時	令和4年10月27日（木曜日）		開 議 午前10時00分
			閉 議 午前11時13分
出席委員	◎木曾 ○大塚 長澤 三上 富谷 浅田 平本 赤坂 松山 小川 奥野 <福井議長>		
執行機関 出席者	[生涯学習部] 田中部長、今西生涯スポーツ課長、廣瀬生涯スポーツ係長 [まちづくり推進部] 伊豆田部長、藤本事業担当部長、信部桂川・道路交通課長		
事務局 出席者	井上事務局長、加藤副課長兼議事調査係長		
傍 聴	可	市民0名	報道関係者0名
		議員0名（－）	

会 議 の 概 要

10:00

1 開 議

[木曾委員長 開議]

[事務局副課長兼議事調査係長 日程説明]

10:02

2 案 件

(1) 京都スタジアムの市内交通への影響等について

[生涯学習部・まちづくり推進部 入室]

[生涯学習部長 あいさつ]

<生涯学習部長>

京都スタジアムについては、令和2年1月に竣工し京都サンガF.C.のホームグラウンドとして活用されるようになり3シーズン目となっている。今シーズンはJ1リーグに昇格し、コロナ禍においてもこれまで1試合平均の入場者数が1万1,321人と全国から多くの方が亀岡市に訪れていただいている状況である。今シーズンの京都スタジアムでのホームゲームは、明後日10月29日（土）のセレッソ大阪戦が最終戦となり、現在J1残留に向けて熾烈な戦いの中にあるが、残り試合を勝利して残留を決めてほしいと願っているところである。本日は、生涯学習部生涯スポーツ課から資料1により、府立京都スタジアムで多数の来場者があった場合の交通状況及び対策等について、また、まちづくり推進部桂川・道路交通課から資料2により、関連道路の整備状況について説明させていただくので、よろしく願います。

○府立京都スタジアムで多数の来場者があった場合の交通状況及び対策等について

[生涯スポーツ課長 資料1により説明]

[質疑]

<三上委員>

南つつじヶ丘や東つつじヶ丘曙台の方からの声として、バス利用で病院等に行く際に、試合日には国道9号頼政塚交差点付近が渋滞してバスが全然動かずに間に合わないという話がある。試合終了後の状況しか調査していないようであるが、試合開始前がどのような様子であるのかつかんでいるのか。

<生涯スポーツ課長>

試合開始前の交通状況の把握はできていないが、亀岡に早く来られて周遊されるなど、いつときに集中して来市されていないと考えている。

<三上委員>

それはあくまで机上の空論であり、おそらく来市はばらばらなので大丈夫だろうということである。実際の状況は見てみないといけないと思う。

<生涯学習部長>

三上委員からあったルートについては、私も試合日の市民ノーマイカーDayのときにバス利用でデーゲームに数回行ったことがある。1万人ぐらいの観客数の試合であり、午後12時30分ぐらいに南つつじヶ丘経由でJR亀岡駅へ行くルートを利用したが、そのときには大きな渋滞は発生していなかった。ただし、そのほかの試合で1万7,000人ほどの入場者があった試合での渋滞の発生は確認できていないところである。京阪京都交通に試合後のバス運行の遅延状況を報告いただいているが、試合前の遅延の有無についても確認したいと思う。

<長澤委員>

対策としてJRによる増便増結、駅への入場制限との記載があるが、増便増結のキャパシティは限界まで努力されているのか、まだ余裕があるのか。

<生涯スポーツ課長>

サンガが試合のチケットの売上げ枚数等により、スタジアムへの入場予測を立てられている。その情報をサンガからJRに報告され、JRはデーゲームやナイトゲーム等を考慮して増便や増結の対応を検討されている。JRから聞いている中では、駅への入場制限も含めて、多くの入場者が想定される試合については、乗客の安全確保対策として最大に人員を増やし、増結やダイヤ編成できる範囲で増便して対応いただいている。

<小川委員>

ホームゲーム時の交通等状況調査については、①は事業者へ委託し、②は職員対応となっているが、その違いは何か。

<生涯スポーツ課長>

ホームゲーム時の交通等状況調査について、①はJ1リーグ開幕戦で注目が集まる試合であり、多くの来場者を見込んで京都府と合同で調査したものであるが、職員はイベント等の対応があったため、専門業者に調査を委託し的確に状況把握したものである。②はシーズンを通して交通状況を見ている中で、職員の目視で確認できると判断し、経費も考慮して職員対応に切り替えた。

<小川委員>

来シーズンはどのような方式で調査していくのか。

<生涯スポーツ課長>

まずは職員対応で交通状況の把握に努めることとし、詳細な状況把握が必要となれば、京都府と協力して事業者に委託することも考えられる。また、スマートフォンの位置情報による混雑状況として、ヒートマップを活用したデータ収集・集約が比較的容易にできると聞いており、そのようなことを組み合わせながら、試合日の交

通状況の把握を継続していきたい。

<小川委員>

引き続きいろいろな方法で交通状況の把握をお願いしたい。京阪京都交通によるJR桂川駅等への直通便の具体的な利用状況は。

<生涯スポーツ課長>

試合終了後に、JR亀岡駅北口から発車しJR桂川駅までを直結して運行しており、一番多く利用いただいたのは9月3日（土）のヴィッセル神戸戦であった。この際は、往路でバス3台120名、復路でバス10台493名が利用されている。J1リーグのほかルヴァンカップ等を含めて、今シーズンでこれまでに復路で延べ4,546名に利用いただいている状況である。

<小川委員>

多くの利用があることが分かった。引き続きJRやバス等の利用啓発をお願いする。

<平本委員>

これまでの議会質問の中でもパーク・アンド・ライドの検討は難しいと言ってこられたが、これほど多くの車が亀岡に来ている状況がある。駐車場がなく車で来ないでほしいといった周知との整合性があるとの答弁であったが、パーク・アンド・ライドを今後検討してもよいのではないか。そのことの調査・研究はしているのか。

<生涯スポーツ課長>

パーク・アンド・ライドについては、調査・研究の段階であり、実施に向けた特段の行動が取れていない状況である。その理由としては、スタジアムに公共交通機関で来ていただくように周知しており、パーク・アンド・ライドを推奨することで逆に車の市内流入を誘発するおそれがあるといったことから、現状では実施していない状況である。しかしながら、パーク・アンド・ライドができる可能性がある場所の有無や市街地に車を流入させずに市街地外に駐車してバス等でピストン運行できるような駐車スペースの有無について研究しているところである。京都府との調整の中では、現状で若干の渋滞は発生しているが、車での来場をしないといった周知・対応でスタジアムを運営していきたいとの思いの中で、パーク・アンド・ライドの実施を控えているところである。

<平本委員>

今後パーク・アンド・ライドを実現することを願っている。会場周辺には駐車場がないと周知を徹底すれば、パーク・アンド・ライドを実施することの整合性が保てると思う。他市の実例を含めて市街地内に車が溢れないような方策を検討いただくよう要望する。

<三上委員>

私も先日の名古屋グランパス戦のときに、電車でJR馬堀駅からスタジアムに行ったが、JR馬堀駅付近の駐車場は普段見かけない他府県ナンバーの車で満車になっており、これは実際にパーク・アンド・ライドと言えるのではないか。よいことであると思うが、結構車で溢れ返って駐車するところがない状況であった。そのような駐車場や違法駐車状況について調査しているのか。調査していないのであれば、調査してみてはどうかと思う。

<生涯スポーツ課長>

そのような調査はできていない状況である。大型スーパー等に駐車しそこから乗り合いや公共交通機関でスタジアムに来られるなど、スタジアム付近に駐車場がないとの周知やSNS等での拡散によって、自らパーク・アンド・ライドを実施いただ

いている方々がおられることを聞き及んでいる。ただし、サンガの試合があった日に住宅街に違法駐車が増えるのでどうかしてほしいといったことや、店を利用されない人が駐車して店を利用するお客様に迷惑がかかっているといったことを直接聞いたことはない。

<まちづくり推進部長>

今の説明に少し補足すると、スタジアム開設前に、イオン亀岡店など外周の様々な施設の駐車場として1,400台分があるが、駐車料金の差別化を図りながら市街地に車を誘導していかないようにいろいろな対策をしていくことを、当委員会に報告させていただいている。

<奥野委員>

対策の中に京阪京都交通によるJR桂川駅等への直通便とあるが、利便性の向上として阪急の駅にもバスを走らせる考えはないのか。

<生涯スポーツ課長>

阪急の天王山駅への直通便について検討できないかとの一般質問もいただいている。京阪京都交通にはその旨を伝えているが、京阪京都交通の運行路線ではなくニーズの把握等を含めて運行許可としての手続きとなることもあるので、京阪京都交通でこのような路線の開通について検討いただいていると思っている。

<奥野委員>

実現する可能性はどうか。

<生涯スポーツ課長>

可能性としてはあると思うが、実施における最終判断は京阪京都交通がされるので、亀岡市は願う立場であると考えている。

<奥野委員>

努力をお願いする。

<木曾委員長>

先ほどの質疑にあったパーク・アンド・ライドについては、スタジアムを設置するときに実施していくと説明されており、実施することが当たり前であって、今の段階でなぜ検討なのかが不思議である。早急に対策を練ることが大事であると思う。私はakippaというシステムを使って駐車場を貸しているが、先日の名古屋グランパス戦でも駐車されており、篠町でも需要があるので周辺を含めてパーク・アンド・ライドができていないのはいかがなものかと思う。できるだけ市街地に車を流入しないようにするためにはどのようにしていくのかもっと真剣に考えていかなければならない。市民生活に影響が出るのではないかと心配するので、その点はよろしく願いしたい。当時、パーク・アンド・ライドの検討として、亀岡運動公園体育館の駐車場や野水の市有地が空いているときに活用し、そこからバスをピストン運行してはどうかと随分議論したと思っている。議論したにも関わらず最終のまとめの段階で何の報告もないのは残念である。亀岡市の姿勢として市民への影響を考えて対策を取っていただくように委員長として申し上げるので、よろしく願いする。

10:37

○関連道路の整備状況について

[桂川・道路交通課長 資料2により説明]

[質疑]

<松山委員>

関連道路を整備していただいている中で、京都府を通じてになるかもしれないが、先ほど説明があった交通状況調査の情報をもとに国土交通省との協議や調整はどのようにしているのか。

<桂川・道路交通課長>

市道クニッテルフェルド通の左折レーンの整備についてでよいか。

<松山委員>

市道クニッテルフェルド通や市道並河蚊又線の整備はもちろん大切であり、そういった整備をしていくことを踏まえて調査していただいていると思うが、調査の結果を国土交通省は把握しているのか。これらの整備でどれほど国道9号の渋滞緩和や市民生活に支障を来さない範囲での交通が担保できるのかをトータルで考えていかなければならないと認識しているが、その点について国土交通省や京都府との協議が具体的に進んでいるのか。

<桂川・道路交通課長>

市道クニッテルフェルド通と市道並河蚊又線の両路線については、道路を設計した段階で国土交通省と公安委員会に接続協議を行っている。現状の交通量や渋滞の発生状況等からそれを解消するために、左折レーンでこれだけの延長を設けたいといったことを協議し、その協議が整ったことで現場の施工を進めている。また、供用開始後の状況にもよるが、信号の点灯時間等の調整も必要になってくると思われる。市道クニッテルフェルド通は明後日の早朝に供用開始するが、その後の渋滞の状況等は公安委員会と一緒に観測していきたいと考えている。

<松山委員>

関連道路の整備を鋭意進めていただいていることは分かっているが、生涯学習部が実施した交通状況調査の結果がまちづくり推進部を通じて国土交通省にしっかりと伝わっているのか。

<木曾委員長>

スタジアムに係る交通状況調査の結果について、国土交通省と調整しているのか。

<生涯スポーツ課長>

京都府と情報共有しているが、国土交通省へは報告していない。

<松山委員>

国土交通省も状況を知っておくべきであり、これからは情報共有した上で返答等を知っていききたいので、そのことはお願いしたい。

<生涯スポーツ課長>

調査した状況についてまちづくり推進部と連携して国等の関係機関に報告できるように努めていきたい。

<赤坂委員>

市道並河蚊又線が開通して車を誘導する取組をすれば、3分の1くらいの渋滞は減ってくると思うが、この道路はいつできるのか。

<桂川・道路交通課長>

明確な完成時期は決まっていないが、ほ場整備の施工期間が令和8年度までとなっており、それに合わせて完成するように進めている。

<赤坂委員>

ほ場整備とは別に、先に道路整備を進めるのではなかったか。同時に進めていかな

ければならないのか。

<桂川・道路交通課長>

ほ場整備区域外の北と南の交差点箇所については、先行して道路の築造工事が実施できるが、ほ場整備内については、ある程度整備されてからの道路の築造工事となる。ほ場整備の進捗を妨げないよう調整しながら進めており、令和8年度まで目一杯の期間をかけるつもりはない。できる限り早期に築造したいと思っているが、今はっきりと期限を申し上げることはできない。

<赤坂委員>

令和8年度となればまだ4年ほど先である。ずっとJ1であれば4年間は渋滞が解消されないことになる。全体的に連携を取って進めていかなければ、さらに完成時期が遅れることもあると思うがどうか。

<桂川・道路交通課長>

ほ場整備の進捗を妨げないように、道路整備を早期に進めていきたいと考えており、農地整備課とも連携・調整していきたい。

<平本委員>

国道9号頼政塚交差点改良は大きく期待したいと思う。スタジアムからの帰りにアル・プラザ亀岡前を東へ左折して京都縦貫自動車道の篠インターに向かわれる車が多くあるが、アル・プラザ亀岡前の交差点は買い物等の歩行者が多いところである。交差点改良までを求めているものではないが、信号の点灯時間を調整するなど歩行者が優先的に渡れて車も渋滞しないような方策は検討しているのか。

<桂川・道路交通課長>

現状では市道馬堀停車場篠線の整備を進めており、これが開通すれば直進して京都縦貫自動車道の篠インターに行けるようになる。完成にはまだ期間がかかるので、公安委員会には信号制御等で対応できないか伝えていきたい。

<平本委員>

市道馬堀停車場篠線の早期完成についてずっと言っているが、大分遅れてきている状況である。今すぐに当事業を進めることは難しいと思うので、この信号システムの調整について応急的に対応いただくよう要望しておきたい。

<木曾委員長>

市道クニッテルフェルド通の左折レーンの整備については、難しい点もたくさんあったと聞いていたが工事も進んでいるようである。かなりスムーズに国道9号に出ているようになるので整備できてよかったと思っており、今後の状況を見守っていきたい。ただし、直進して京都縦貫自動車道の篠インターに向かわれる車よりも、左折して国道9号に入る車のほうが圧倒的に多いのではないかと。国道9号が慢性的に渋滞している中で、試合日にはさらに交通量が増えており、いつまでたっても渋滞が解消できない状況である。国道9号の篠辺りから老の坂を抜けて4車線化にしていきたいといった話を市長がされており、そのようなことも考えてこれらの関連道路の整備を進めているのか。根本的にその辺のことがはっきりとしない限り、国道9号が渋滞してしまい市民生活に大きな影響が出てしまう。国道9号を4車線化にしていく方針と合わせてやっておられると思うが、国土交通省との交渉はどのようになっているのか。

<桂川・道路交通課長>

国道9号の渋滞緩和に関しては、渋滞が激しい交差点改良について以前から国土交通省に要望しており、直轄の国道事業で別途進めていただいているところである。

頼政塚交差点については、できる限りつつじヶ丘方面に車両が行かないよう、そこから京都縦貫自動車道の篠インターに向かわない形で車両を誘導しようと思っており、信号の調整等も必要になってくると感じている。

<木曾委員長>

国道9号のアル・プラザ亀岡前から京都縦貫自動車道篠インターに向かう道路と市道中矢田篠線が交わる交差点の周辺について、試合が終わった段階でどのような状況になっているのか見られたことはあるのか。大渋滞でとんでもないことになっていることを調べてほしい。アル・プラザ亀岡からも車が出れなくなっていることも問題であり、市民生活が一体どのような状況になっているのかを把握する必要があると思っている。そのような状況を確認してこれから何をしていかなければならないのかを考えて対策を取っていかなければ、根本的な解決にならないと思う。それが例えば市道馬堀停車場篠線の整備を優先していくのか、ほかに違う方法を考えていくのかといったことではないか。決してまちづくり推進部が対策を取らないからこのような状況になっているという話ではなくて、スタジアムができたことによってどのようなことを考えていかなければならないのかをこの委員会で議論しているものである。これまでもそのような観点で指摘をしてきたが、市道並河蚊又線については、先に市道認定されたもののほ場整備が進まないこともあり、令和8年度までまだ4年間もかかるとなればいろいろと問題が出てくるのではないかと思う。せっかく新しく宇津根橋が整備されたにもかかわらず、そこから先がなかなか進んでいかないのが現状である。渋滞解消の方法をしっかりと考えていかない限り、市民生活に影響がないようにしていくことは難しいと思うが、総合的に部長から何かあるか。

<まちづくり推進部長>

私もこの委員会の最初の頃からいろいろと答弁させていただいているが、基本的には公共交通機関を利用していただくことを第1目標としてやっている。公共交通機関を使ってスタジアムに来ていただくことをしっかりと周知し、市内に入ってくる車両を減らしていくこと、また、その時間帯には市民の方の車で外出を若干控えていただくこと、そのようなことで交通渋滞が一定解消できるものと考えている。コロナ前に実施されたスタジアムのこけら落としのときは、多くの方がスタジアムに来られることを大変心配していたが、車で外出を控えていただくように事前に市民にお願いし、市民生活に影響がある道路を通らないように様々なところに看板を設置したことで、渋滞が抑えられたということもある。そのようなことをしっかりとやりながら、できる限り公共交通機関を利用していただけるようにしっかりと取り組んで、先ほどあったパーク・アンド・ライドについても研究しながら、市民に影響を与えないような方策を考えていく必要があるのではないかと考えている。

<木曾委員長>

スタジアムでまちづくりを考えている市として、渋滞に巻き込まれている状況ではいけない。できる限り市民生活に影響が出ないように、しっかりと道路整備をしていただくようよろしくお願ひしたい。

[質疑終了]

10:58

<木曾委員長>

京都スタジアムのクライミング施設での事故と改善について、京都府山岳連盟から京都府文化スポーツ施設課に要望が出されており、生涯学習部が報告を受けていると聞いている。今日このことについて協議するといったことではないが、せっかくの全国初の室内クライミング施設でもあるので、事故が起こらないように安全対策に最善を尽くしていただきたいのは当然のことである。京都府から報告があった内容について説明いただきたい。

<生涯スポーツ課長>

委員長からあったとおり、スタジアム内のクライミング施設で利用者がけがをされた事故が発生している。9月15日の京都新聞にも掲載されたが、スタジアムを管理している京都府文化スポーツ部文化スポーツ施設課からの情報共有で、事故の状況と今後の対策等について連絡・調整があったところである。令和4年7月にサンガスタジアムで開催されたスポーツクライミングのリード種目、高さ12メートルの壁を制限時間内で一番上まで登っていく競技の競技中に選手が落下して、落下防止用のロープにぶら下がった際に、後方の管理用通路の柵の上部に衝突し尾骶骨を骨折されたものである。競技上の安全対策として、スポンジのクッションカバーを柵の横側に設置して保護されていたが、上からの落下に対する安全対策に不備があったと報告を受けている。応急的な安全対策として、事故があったクライミングウォールの左側箇所について、柵の上部を含めて防護マットを設置した上で、継続して利用いただいている状況とのことである。現在、京都府において競技団体である京都府山岳連盟や施設管理者のビバ&サンガと今後の対策について協議されており、管理用通路の改善や柵の撤去等を含めてさらなる安全確保対策を実施し、安心して利用していただけるように改善するべく進めていると聞き及んでいる。

<木曾委員長>

私も京都スタジアム検討特別委員長として、京都府山岳連盟の役員とお会いし説明を受けた。壁上部の傾斜の関係や壁から管理用通路までの幅が狭すぎるといった不備を指摘されているが、京都府山岳連盟がおっしゃっていることは、事故のない安全な施設に改善していただきたいということだけであった。スポーツによるまちづくりを宣言している亀岡市として、スタジアム内にあるクライミング施設の安全対策を十分に取っていただくようにしていかなければならないと思う。当委員会から細かなことを言うつもりはないが、京都府にはクライミング施設の安全対策をしっかり取っていただきたいという要望を正副委員長で取りまとめたいと思っているがどうか。

—全員了—

<木曾委員長>

安全対策を取っていただくことを要望していく。正副委員長で文言を取りまとめさせていただきますので、御承知おきいただきたい。

[生涯学習部・まちづくり推進部 退室]

11:06

3 その他

(1) 今後の日程

<事務局副課長兼議事調査係長>

12月14日(水)の産業建設常任委員会後に当委員会を開催いただき、12月議

会最終日に議場で行う委員長報告を確認いただく予定としている。委員長報告の内容については、平成31年3月議会で当委員会が設置され、木曾委員長のもと調査活動がスタートし、令和元年5月には建設中のスタジアムの現地調査を実施しており、また市民から2度の要望を受けて審査・検討いただいた経過もある。その後、令和元年7月、令和3年8月、また本日に、スタジアムに関する大きな課題である交通アクセスを中心に執行部から行政報告を受けるとともに、先ほど正副委員長に一任いただいた京都スタジアムの附属施設の安全対策に係る京都府への要望も含めて、所管事項の調査を継続して実施してきたところであり、そのような活動内容を委員長報告として取りまとめさせていただくので、委員の皆さんに確認いただきたいと思っている。

<木曾委員長>

説明のあったとおりであるので、よろしく願います。また、京都スタジアム検討特別委員会については、時限的に課題を調査・検討するために設置した特別委員会であるので、この17期をもってその活動を終了させていただき、今後においては所管する常任委員会で協議いただくことがよいのではないかと思います。最終の委員長報告ではそのことも踏まえて、シビアに報告していきたいと思っているがどうか。

<三上委員>

今日の委員会の状況からすれば、パーク・アンド・ライド、駐車、交通、附属施設での事故等の課題もあるので、もう少し見守っていけないかと思っている。17期が終わるきりのよいところではあるが、私は特別委員会として残してもよいのではないかとの思いを持っているので、皆さんの意見を聞かせていただきたい。

<小川委員>

今日の議論も含めてこの17期に木曾委員長のもと今まで取り組んできたことをしっかりと委員長報告でまとめていただき、後は所管の常任委員会でそのことを踏まえて注視していきたいと思っており、この17期で終了することにより。

<松山委員>

今期で閉めていただいてよいと思っている。今日の議論を含めて委員長報告の中で強く言っていただきたい。

<富谷委員>

今限りで一定の区切りをつけて、会派としても所管の常任委員に託していきたい。

<木曾委員長>

三上委員がおっしゃったように、今回でこの問題が終わる話では決してなくて、これからも引き続き検討していかなければならない課題ではあるが、現在3つの特別委員会で重複している委員もいるので、一旦元に戻して公共交通対策特別委員会と桂川・支川対策特別委員会に切り替えていくことが望ましいのではないかと思います。京都スタジアムに関する課題については、今後所管の常任委員会で十分議論いただくことがよいと思っており、そのように取り計らうことで三上委員はどうか。

<三上委員>

それで結構である。引き続き関連する常任委員会で注視していただきたい。皆さんに情報共有したいことがあるがよい。

<木曾委員長>

結構である。

<三上委員>

委員長も御存じのことであるが、このクライミング施設については、ほかにも4点

ほどの問題点があると聞いている。本日委員会があるということで、木曾委員長と会われた京都府山岳連盟の競技委員長に私もお会いし、最新の情報を伺ってきた。新聞に載ったこともあり、管理用通路や柵の改善・撤去等について4案ほど京都府が出してきており、費用もかかって施工期間の2カ月ほどは利用できないとのことであるが、それはやるべきであるとの話であった。また、天井のライトが眩しくて、下で命綱を持っている人が上を見れば、選手と被ってしまい落下した際に対応するタイミングが分かりにくいこと。落下しないように一定の高さでフックをかけるが、最初のフックをかけるところが通常よりも高いところにあって危ないこと。床のラバーが固いので変えてほしいこと。京都府山岳連盟はこれらについてもずっと京都府に要求しているが、なかなか対応してもらえていなかったようである。管理用通路や柵の問題はなんとかするように聞いておられるが、あとの問題点については検討させてほしいという感じになっているようであり、これらについても京都府に対して厳しく要望していただきたい。

<木曾委員長>

今もあったように、京都府山岳連盟が指摘されているとおり安全対策を取ってもらうことを京都府への要望に盛り込むこととして調整したいと思う。次回12月14日(水)の委員会では、12月議会の最終日に行う委員長報告を確認していただくので、よろしく願います。

散会 11:13